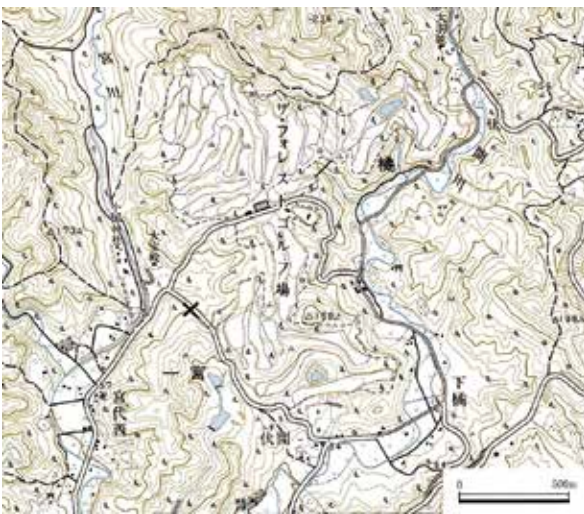


W016 小国神社の光明断層(静岡県GEO DATA(11) : 地学散歩(90))

著者	加藤 国雄
雑誌名	静岡地学
巻	110
ページ	iii-iii
発行年	2014-11-24
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024583

W016 小国神社の光明断層



国土地理院 1:25,000 森

灰色の角礫状の塊が多数含まれていることがわかる。この露頭は市街地から近く容易に訪れることができる。

光明断層は、中央構造線からほぼ南北走向で水窪湖のダムサイト付近をとって南下し、下百古里で数本に分岐した最も東側の断層が、南東に向きを変えて遠州森町の小国神社から市街地方面へと続いている。この露頭は、小国神社の正面鳥居から約 300m 東の道路に沿う駐車場の斜面に表れた光明断層である。全体の幅は約 15m、主に砂泥互層からなる四万十帯三倉層群の暗い灰色の泥質岩である。表面付近は細かく割れ、ぼろぼろと崩れ落ちやすい。露頭の一部にはわずかに層理面が認められるものの、連続性が乏しい。近づいて見ると泥質岩の中に周りよりも明るい

(加藤国雄)